

この出入口のこと知ってる?

阪神高速の出入口再発見!

# おうぎまち「扇町」

12号守口線「扇町出入口」

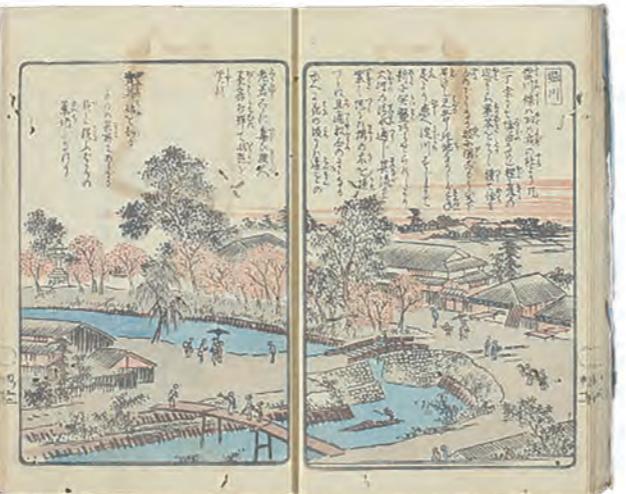


浪花百景「堀川備前陣屋」(大阪市立図書館デジタルアーカイブ)

大阪を代表する100の名所を描いた人気浮世絵シリーズ。幕末の大坂の町の風景や庶民の姿が生き生きと描かれている。流れてはいる天満堀川。奥に見えているのは備前岡山藩が設置した陣屋で1861年に建設された。天満堀川の土手にはこのように桜の木が植えられ、多くの人の目を楽しませた。

浪華の賑ひ「堀川」(大阪市立図書館デジタルアーカイブ)

『浪華の賑ひ』とは江戸時代の人気読本作家、暁鐘成(あかつき・かねなる)が著した大阪の名所案内記。「堀川」には行楽地となつた当時の様子が絵と文章で記されている。それによると、「この川筋は行き止まりに塵芥(ちりあくた=ごみ)が山のように積み上がり、とても見苦しい場所だったが、近年新たに東方の淀川筋まで開削され、水の流れが通り、清らかになった。堤には桜の木が植えられ、花の咲く頃には老若男女が集い、賑わっている。初めの頃を知る者はそこにいないのだろう」と疑うばかりの景色のよい土地となった」とある。



## かつて町はずれだった扇町が都市に発展 監獄が公園に、堀川が都市高速に

土地改良と舟運を目的に、多くの堀川がめぐらされた大阪。そのひとつ、旧天満堀川は「扇町」に由来のある北摂行引き重要ルートでした。現在は埋め立てられ、阪神高速12号守口線がその役割を担っています。扇町に伝わる歴史について大阪歴史博物館の大澤研一館長に聞きました。

### 扇町のシンボルとなつた清流と桜

近世以降、縦横にくまなく舟で行き来することのできた大阪は、水都として発展してきました。15本あつた堀川のうちのひとつ、天満堀川は1598(慶長3年)に堂島川から北方向に出っ張るよう開削され、当時は扇町公園あたりで行き止まっていました。天満堀川に架かっていた橋が扇の形に見えることから扇橋と名づけられ、のちに扇町という地名が誕生したといわれます。しかし、地名としてはそんなに古いものではありません。江戸時代、このあたりは夫婦町と呼ばれ、こちらの名前に歴史的な地名があるようです。話はこうです。現在の天神橋筋商店街は「天神橋筋」という街道に沿つて店が建ち並んだ商店街で、天神橋筋は奈良時代にさかのばるところでもあります。そのような道を挟んで両側に存在したのが夫婦池です。夫婦町はこの夫婦池から由来したと思

エッセイ 秋 季節の言葉

秋風とともに、空気が澄み、夏にはなかつた落ち着いた雰囲気が感じられるようになりました。傍らになく虫の音、そして美しく輝く月を見るとき、多くの日本人は秋の素晴らしさを感じずにはいられません。

おつきさま、えらいなおひさまのきょうだいで、みかづきになつたり、まんまるになつたり、まんはる、なつ、あき、ふゆ、にっぽんじゅうをてらす。

子どもの頃、月を見ながら石原和三郎の唱歌「おつきさま」を歌つた方もいらつしやるのではないでしようか。電気が津々浦々に普及する以前、日本の夜は暗く、明るく輝く月をなによりも美しく、とりわけ「秋の夜の月」は情趣深いものでした。

ところで、ちょっととこの「おつきさま」をくちずさんでいただけませんか。そして、はる、なつ、あき、ふゆの発音に注意してみてください。この歌では、はる(高低)、なつ(高低)、あき(高低)、ふゆ(高)

低)とアクセントは全て同じになつ

ていますね。

日本語のアクセントは関西と関東では違つていて、関西では、はるう(低高下)・はが低く、るで高くなり、うで下がる(なつ)(高低)、あきい(低高下)、ふゆ(高低)となります。一方関東では、はる(高低)、なつ(低高)、あき

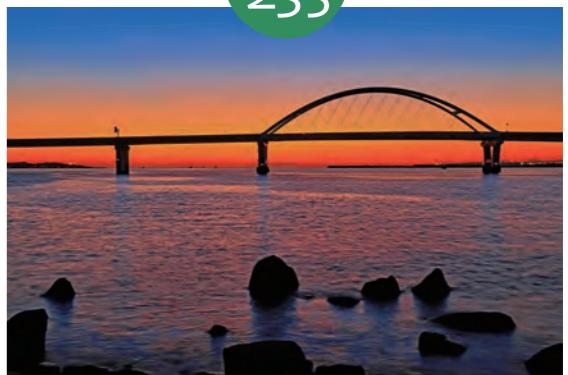
(高低)、ふゆ(低高)となるはずです。つまり、関西では春秋はともに(低高下)、夏冬は(高低)、関東では春秋が(高低)、夏冬が(高低)で、「おつきさま」のようにはる、なつ、あき、ふゆの全てが(高低)となることはないはずです。歌詞のアクセントが実際のアクセントと違つても違和感がない人もいます。またそもそも歌詞のアクセントは実際とは違うものだと考える人もいます。しかしながら三木露風の詞を山田耕筰が作曲した「あかとんぼ」のように、日常で用いられていたアクセントに忠実にメロディーが付けられている曲も少なくありません。

美しい月を見るたびに、アクセントが気になるのは私だけなのでしょうか。

中井精一 なかいせいいち(同志社女子大学日本文学科教授)  
博士(文学)(大阪大学)専門は日本語学・方言学。主な著書に「地図で読み解く関西のことば」(昭和堂)「関西弁事典」(ひじ書房)、「大阪のことば地図」(和泉書院)などがある。

関西とともに―[阪神ハイウェイ]  
**HANSHIN HIGHWAY**

2024 AUTUMN vol.  
235



~阪神高速のある風景~  
第3回 阪神高速フォトコンテスト優秀賞作品

## CONTENTS

- エッセイ●季節の言葉  
おつきさま、えらいな 中井精一
- この出入口のこと知ってる?●阪神高速の出入口再発見!  
1 おうぎまち[扇町]  
12号守口線「扇町出入口」  
かつて町はずれだった扇町が都市に発展  
監獄が公園に、堀川が都市高速に
- 4 関西の名工  
石村隆一さん(三味線職人)  
限界ぎりぎりまで皮を引っ張る  
めざすのは、最高の音色の三味線
- 6 教えてセンセイ  
武藤康弘さん(武庫川女子大学教授)  
繩文時代は自然に寄り添い  
精神的に豊かな、共助の時代でした
- 8 阪神高速の取り組み  
大阪港の赤いシンボル  
「港大橋」は、開通50周年を迎ました
- 10 ちょっと行ってみたい関西うまいもん  
川西のいちじく ●川西市

- Hanshin Highway TIMES  
お客さま満足アッププランは2024から2025へ/国際人権デー  
阪神高速の料金所がETC専用に順次かわります  
「喜連瓜破 橋梁架替え工事」の動画公開中



表紙イラスト〈天神橋筋商店街と阪神高速守口線が交差する夫婦橋交差点〉  
ヤマサキタツヤ:大阪生まれ大阪育ちのイラストレーター。誌面やWebなど各媒体で活動。  
「来た見た食うた 大台南見聞録」「書肆侃侃房」などに台湾に関する書籍を出版。

